

8月21日から始まったトリエンナーレも10月31日で閉幕し、美術館では現在その撤収作業が進められています。



トリエンナーレは愛知県美術館の主催事業ではないとはいえ、次の展覧会も控えているため、美術品専門の運送業者と一緒に美術館のスタッフもサポートにあたりながら作業が進められています。

「トリエンナーレが終わったら、作品はどうなるの？」と尋ねられることもありますが、ほとんどの作品は、作家自身やギャラリーなどの所蔵先に返却されます。



上の写真は、国内や海外へと輸送されるべく梱包された作品の入った木箱たち。



作品が搬出されて広々とした展示室は、お祭りが終わった後のような寂しさを感じさせます。



連日賑わいを見せていたロビーもいまは静かになっています。

それから「トリエンナーレ行きそびれた！」という方に朗報です。

じつはトリエンナーレ閉幕後でも見ることのできる作品があるんです。



松井紫朗さんの、緑色をしたバルーンの世界《channel》です。

作品の一部をすでに撤去してしまっているため中に入ることはできませんが、芸術文化センターの吹き抜け部分のフォーラムで、2011年の2月頃まで（修復中の北山善夫作《私（あなた）》が戻ってくるまで）展示される予定です。

ところで、愛知県美術館の所蔵作品を展示していなかったトリエンナーレの会期中には、ありがたいことに「所蔵作品展は見られないの?」とか「クリムトはどこにあるの?」といったお問い合わせをいただくことが少なくありませんでした。

愛知県美術館では11月26日（金）から〈美の精髓〉展を開催します。ブダペスト（ハンガリー）でのクリムト展に貸し出されていたクリムトの《人生は戦いなり（黄金の騎士）》をはじめとして、しばらく見ることのできなかつた愛知県美術館の名品300点を展示します。

愛知県美の所蔵品を見たかった!という方や、現代美術のあとはゆっくり近世や近代の絵画を楽しみたい!という方、どうぞお楽しみに。

(SS)